

会派視察・研修報告書

会派名 公 明 党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 に ち	令和7年7月25日(金)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	静岡県 藤枝市役所
3 参 加 者	寺島 芳枝 片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	ゼロカーボンシティ宣言について
5 主な内容	・ゼロカーボンシティ宣言をした経緯 ・地球温暖化対策への補助金の仕組みについて(特に家庭向け) ・「デコ活」宣言の経緯とその取組について ・「環境マイレージ」の取組の効果と課題 ・「エコファミリー宣言」の取組の経緯と効果 ・戸別収集事業についての成果と課題
6 所感、提言事項、課題等	【寺島芳枝】 平成 21 年に「環境行動都市・ふじえだ」を目指して藤枝市独自の環境宣言「もったいない」都市宣言」を行い、「資源の有効利用」「脱炭素の取組」「生物多様性の保全」を具体的な行動を市民・事業者と共に歩んできた。その中で、R6 年、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて ①【デコ活宣言】(脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動)を実施 ②【環境マイレージ】の取組(節電・節水・ごみ減量・エコドライブ、エコ通勤・マイバックの持参)2 週間チャレンジして合計100ポイントを達成するとマイレージカードを交付、市内 30 店舗で掲示により、得点サービスを利用できる。 ③【エコファミリー宣言】の取組など、市民が個人またはファミリーで行動し易い取組にインセンティブをつける工夫は面白いし、子どもの時から「もったいない」の精神が身につくことで持続可能なゼロカーボンシティへの早道ではないかと感じた。 【片山竜美】 ・藤枝市は「環境行動都市・ふじえだ」を目指して、独自の環境宣言「もったいない」都市宣言」を行った。 ・その宣言の 3 つの柱として「資源の有効利用」「脱炭素の取組」「生物多様性の保全」を掲げている。 ・その柱の1つである「脱炭素の取組」の一環として、「デコ活宣言」「環境マイレージ」「エコファミリー宣言」「エコ支援事業」など主要な施策の説明を受けた。 ・また「もったいないポスターコンクール」や「環境フェスタ」等で市民への

	啓発活動も行っている。 ・さらに食品ロス削減の取組として、「小学 4 年生向けの冊子の作成」や「持ち帰り容器(ドギーバック)推進」などを行っている。 ・「わが家の節電もったいないキャンペーン」は、前年同月比4%以上の節電を達成すると「ふじえだグリーン商品券(500円)」プレゼントの取組を行っている。 ・これら一連の取組と国の施策を連動させる意味で令和 3 年 2 月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行った。 <所見> ・「ゼロカーボンシティ宣言」をすることで、補助金などのメリットは少ないが、市民の意識向上や環境行動都市としてのステイタスは向上していると感じた。 ・「エコ支援事業」の1つに「家庭用ポータブル蓄電池」への補助金にたいへん興味がわいた。昨年 1 月の震災をきっかけに、この補助金の活用がふえたと伺った。 ・多治見市では「健康マイレージ」の取組はあるが、藤枝市では「健康」だけでなく、「環境マイレージ」も連動して行っている。こうして市民に意識を持たせていくのも大切であると感じた。 ・市長が施策の重点として「4K(教育・環境・健康・危機管理)」を掲げている。その結果、こういった施策が積極的に行われていると感じた。「デコ活宣言」にしろ「ゼロカーボンシティ宣言」にしろ、国が勧める施策だが、それを、損得ではなく上手に活用しようという意欲がうかがえた。 ・「戸別収集事業」はたいへん画期的な取組である。市民からは好評であるが、職員への負担も大きい。さらに今後持続していくには、課題も多いことをうかがった。その課題克服に向けて、職員が考え実行している姿に感動した。
7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	

※視察先、研修先ごとに 1 枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。